

# 令和 7 年度 市長【記者】会見 発言要旨

令和 8 年2月9日(月)開催分

< 開催時間 > 14:00~15:00

< 会 場 > 庁議室(市役所本館3階)

< 会見案件 > 令和8年度当初予算案および令和7年度3月補正予算案の概要

< 質疑応答 >

【記者】

今回の当初予算編成について、市長ご自身ではどのような特徴があると考えていらっしゃいますか。評価をお聞かせください。

【市長】

市長就任から 3 年目を迎えますが、掲げているビジョンは順調に進んでいると感じています。今回の予算では、改めて「福井は楽しい」「福井は安心」「福井は元気」という 3 つの柱をより強く打ち出しました。新幹線開業から 2 年が経過する中で、この流れを継続・拡大させ、市民の皆様が「福井は安心」「福井は楽しい」「福井は元気」と実感できることを目指しています。未来を見据えた新規事業も盛り込み、一段とギアを上げた予算編成になったと考えています。

【記者】

今回の予算の中で、特に「目玉」となる事業を教えてください。

【市長】

特に重点を置いたのは「こどもまんなか社会」の実現に向けた子育て支援です。具体的な主要事業としては、子育て支援と教育環境の充実を図るため、小学校の給食無償化を実施するとともに、RS ウイルス感染症対策としての任意接種助成や子育て健診事業の充実に取り組みます。あわせて、防災機能の強化と教育環境の整備を目的とした小学校体育館への空調設備設置も進めてまいります。これらは単発の施策ではなく、防災や教育など複数の分野を横断して子どもを支える仕組みです。将来、福井で育った子どもたちが、この街を誇りに思い、未来へ向かって駆け出していけるような環境をしっかりと整えていきたいと考えています。

【記者】

今回の予算は「持続と挑戦」がテーマとなっています。市政の発展と持続性のバランスを重視して予算配分をされた

印象を受けますが、その点はいかがでしょうか。

【市長】

予算を組む際、「この分野にいくら配分しよう」といった枠ありきの決め方はしていません。あくまで「福井にとって今何が必要か」という視点で事業を一つひとつ積み上げていった結果、今の形になりました。こどもの成長に欠かせない事業、市民が安心して生活するための事業、高齢者福祉など、必要なものを積み上げた結果として「持続と挑戦」というバランスになったと捉えています。特定のジャンルに偏らせるのではなく、実情に即した積み上げの結果であるとしてご理解ください。

【記者】

「責任ある持続と果敢な挑戦」の実現のためには歳入の確保が不可欠です。現在、自主財源比率は41.6%とのことですが、今後、市の原動力となる歳入を増やしていくためにどのような取り組みを考えていますか。

【市長】

歳入確保については、小手先の施策ではなく、経済の好循環による地道な底上げが不可欠だと考えています。まず大きな柱となるのは、「産業基盤の強化」です。現在、県と連携して進めている工業団地の造成は、長期的な税収の源泉となります。そこに企業が立地し、収益を上げることで法人市民税が、また、そこで働く方が増えることで個人市民税が伸びていく。こうした「働く場所」を起点とした大きな循環を重視しています。次に、「市街地の活性化」による財源の安定化です。中心市街地の再開発が進み、新しい建物が建つことで、市にとって最も安定した収入である固定資産税の増収に繋がります。地価の上昇傾向も良い兆しであり、住宅の新築や改修が活発化することで、税収がじわじわと積み上がっていく流れを期待しています。

【記者】

法人市民税などの税収確保に向けて、企業誘致などの施策が重要になると思いますが、お考えを聞かせてください。

【市長】

法人市民税を増やすには、まず企業に元気になってもらう必要があります。県と連携した工業団地の造成・誘致は、その大きな柱です。企業が拠点を構え、収益を上げれば法人市民税に繋がり、そこで働く人が増えれば個人市民税も増える。こうした「良い循環」を描いています。また、新幹線開業の効果でホテルの建設も進んでおり、観光産業の活性化による増収にも期待しています。我々は「福井に注目してもらう」努力をし、民間の方々はそので稼げる環境を整えることが役割だと考えています。

【記者】

再来年度(令和9年度)は市長の任期最後の予算となりますが、今回の予算をどう位置づけていますか。

【市長】

正直に申し上げまして、任期を意識して予算を組み立てることは全くありません。継続すべき事業はしっかりと続けませんが、私の頭にあるのは「今、やるべき事業を確実にやっていく」ということだけです。

【記者】

アリーナ整備について、来年度はどういった年になると位置づけていますか。また、石田知事との連携や期待感についても教えてください。

【市長】

一歩でも二歩でも「着実に前進させる年」にしたいと考えております。令和10年秋の完成に向け、建設の原資となる寄付の確保や周辺整備などを着実に進めます。市民の機運醸成も重要ですので、説明会等も継続していきます。県との連携については、新知事もアリーナ整備の継続を明言されており、先月も意思確認をしています。明日も知事と一緒に国への要望活動に行きますが、非常に密な連携が取れていると確信しています。若い人が集まり、音楽やスポーツを楽しめる、施設になることを思い描いています。

【記者】

衆院選で自民党が過半数を確保した結果を受け、国の予算編成が市政に与える影響をどう考えますか。

【市長】

政局そのものへのコメントは差し控えますが、我々のやるべきことは変わりません。国道8号の整備など、地域の切実な要望を各省庁にしっかりと伝え、国の予算に反映していただくよう努力するのみです。伝えるべきことを伝えれば、結果として良い方向に動くものと考えています。

【記者】

アリーナ整備が着実に進むことで福井市に賑わいが創出されると期待されますが、そこに向けて改めて市長の期待感を聞かせてください。

【市長】

アリーナ整備は、福井市の楽しい・安心・元気のすべてに繋がる、将来に不可欠な施設だと確信しています。経済界

が主導し、市と県が密接に連携する体制に揺らぎはなく、一貫して強い期待感を持っています。予算化によってその歩みは進みますが、行政としては高揚感に流されることなく、一つひとつの事業を着実に積み上げていく地道な作業を徹底してまいります。

【記者】

今年度(令和 8 年度)当初予算には、国の交付金を活用したアリーナ整備支援費が初めて計上されました。令和 8 年度はアリーナ整備にとってどのような年になると位置づけていますか。

【市長】

一言で言えば、令和 8 年度はアリーナ整備にとって実質的なスタートの年になると考えています。これまで重ねてきた議論が、設計や具体的な工事など、いよいよ目に見える形で動き出す年です。

【記者】

交付金の獲得見込みについてもお聞かせください。

【市長】

4月の決定を待つ段階であり予断を許しませんが、昨年 12 月に内閣府の大臣にお会いした際も手応えを感じました。明日も知事と共に直接要望に赴きますが、満額獲得するという強い期待と決意を持って取り組んでまいります。

【記者】

今回の予算全体の中で、特に市長らしさ(カラー)が表れている事業や、こだわりについて教えてください。

【市長】

私の政治姿勢である市民の意見を聞くという姿勢が、具体的な事業に結びついたと感じています。例えば、農業支援におけるドローンの操縦支援です。農家の方々と対話する中で、機体は買えても、高齢化で操縦できる人がいない、また、その講習費も大きな負担だという切実な声を聞きました。それを予算に反映させ、操縦の習得を支援することにしました。また、学校体育館への空調設置や子育て支援策も、市民の皆様の声を直接聞きながら組み立ててきたものです。大きなビジョンを掲げるだけでなく、現場で困っている方々の声を拾い上げ、一つひとつ事業として積み上げていく。そうしたことが、今回の予算に現れているものと思っています。

【記者】

アリーナ計画について、市民の間では依然として賛否両論がある。その中で今回予算化したことについて、今後の市

民への理解促進を含めた市長の考えをお聞かせください。

【市長】

アリーナ計画への賛否は依然としてありますが、議論や報道を通じて認知度は着実に高まっています。最近ではどう活用すべきかといった前向きな提案も増えており、こうした手応えに甘んじることなく、今後も地元の方々への丁寧な説明を徹底していきます。アリーナ建設による他事業への影響を懸念する声も承知していますが、着実な財源確保を進め、一つひとつ具体的な実績をお見せすることで不安を解消していきます。そうした積み重ねを通じ、最終的には福井市になくてはならない施設だと皆さんに実感していただきたいと考えています。